

【目次】

1. 学習会「歌人・社会運動家として生きた阿部静枝」を開催、9月10日！
2. テレビドラマ「警視庁捜査一課9係」に友愛労働歴史館が登場、9月10日！
3. 連載「日本労働会館物語」第50回（日本労働会館に結集した人々―阿部静枝その2―）！

1. 学習会「歌人・社会運動家として生きた阿部静枝」を開催、9月10日！



友愛労働歴史館は9月10日（水）13：30から学習会「歌人・社会運動家として生きた阿部静枝」を開催しました。講師は歌人で阿部静枝（1899.02.28～1974.08.31）を研究し、『歌人・阿部静枝とその精神性』『林うた歌集―さいはひ』を出版されている菅原千代氏（宮城県在住）です。

この学習会は企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」に連動したもので、企画展の「第4部 同盟ゆかりの人々」コーナーで紹介中の阿部静枝を取り上げ、理解を深めるものでした。

学習会にはかつて阿部静枝も所属していた短歌結社ポトナムの関係者6名を含む、16名が参加。最初にスライドで阿部静枝の生涯やその活動について理解を深め、その後、報告者の菅原千代氏が1時間余に亘ってレジュメや参考資料に基づき、報告・解説を行いました。その後、質疑・意見交換を行い、15：30頃に閉会しました。

阿部静枝は尾上柴舟に師事した歌人であり、ポトナムを中心に活動を続け、大正15（1926）年には第一歌集『秋草』を刊行。戦後も数多くの歌集を刊行しています。大正12年に上京して弁護士の阿部温知と結婚し、総同盟・社会民衆党の活動に参加。昭和2年には赤松常子・赤松明子らと社会民衆婦人同盟の創立に参加し、婦選獲得運動などに取り組みます。戦後も民社党の地方議員（豊島区議会議員三期）として活躍する一方、日婦の会や全文協の役員を務めています。

2. テレビドラマ「警視庁捜査一課9係」に友愛労働歴史館が登場、9月10日！



テレビ朝日で9月10日（水）21：00から放送されたテレビドラマ「警視庁捜査一課9係」に友愛労働歴史館が登場しました。もともと登場したのは当歴史館の書庫で、展示室や研修室などは一切登場しませんでした（残念）。



ドラマの中では新宿中央警察署の資料室という設定で、当歴史館のハンドル式移動書架が登場。主演の渡瀬恒彦さんが演じる警視庁捜査一課の係長が書架から資料を取り出すシーンや、机の上で資料を調べ、スマホに撮影しているシーンが登場しています。撮影は8月2日に行われ、当歴史館は書庫や展示室、会議室を提供して撮影に協力しました。

3.連載「日本労働会館物語」第50回

＜日本労働会館に結集した人々―阿部静枝その2―＞



！ 本稿はメールレポート「友愛労働歴史館たより」第82号の「阿部静枝その1」に続くもので、開催中の企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」との関係で記述しており、9月8日からスタートした同展は第四部で「同盟ゆかりの人」コーナーを設け、阿部静枝を取り上げています。

阿部静枝は歌人・評論家・社会運動家として知られますが、今回の展示も3つに分け、最初に「1. 歌人・阿部静枝」につ

いて、その作品や活動の一端を展示・紹介しています。第一歌集『秋草』から第六歌集『阿部静枝歌集』、さらに色紙・掛軸、短歌を印刷した手ぬぐい、風呂敷などを展示・紹介しています。

次に「2. 評論家・阿部静枝」について、評論集などを展示し、解説しています。解説パネルには阿部静枝を研究している内野光子

(ポトナム同人)の「実践的・実用的なテーマが多く、女性歌人、評論家の肩書を自他ともに活用し、効用もあった。単行本出版との相乗効果も大きかった。対談や座談会では、男性の論者と共に、どんなテーマに対してでも、ある程度の知見を持って、明確で、平易に発言できる女性論者として重用された」、「幅広いテーマで、かつての無産女性運動の実績を踏まえ、女性としての国策推進への実践的な提案や提言した」との文章を引用しています。しかし、展示スペースの関係などから阿部静枝の評論集・随筆の紹介に止め、解説は省いています。

最後は「3. 社会運動家・阿部静枝」で、戦前の社会民衆党・社会民衆婦人同盟から戦後の民社党・日婦の会までの一筋の道を、昭和初期の社会民衆婦人同盟を中心に紹介。また、静枝が短歌欄を担当していた総同盟『労働婦人』、明日社『明日』などを展示しています。戦後の阿部静枝では、日婦の会(旧民社党系婦人団体)や全文協(旧同盟系文化団体)の副会長を務めたことなどを解説し、最後に春日一幸民社党委員長の追悼文(一部)を紹介しています。

「阿部さん、あなたは歌人として高名であられました、同時に民主社会主義運動の指導者として、また婦人解放運動の指導者として数多くの業績をのこされました。昭和初期から社会運動に挺身され、社会民衆党、社会大衆党、さらに戦後の社会党、民社党を通じ民主社会主義の道一筋を歩んでこられました。短歌を通じて労働組合における文化活動の発展に寄与すること多大でありました。数多くの労働組合で短歌の指導に当られ、文化活動に対する労働者の目を大きく開いたのであります。また民社党中央機関紙『週刊民社』創刊以来歌壇を担当され、民主社会主義運動に従事する人々に心の糧を与えてくれました。安らかにお眠り下さい。」



「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F Tel050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

唯一館から120年、友愛会から102年